

平成 2 5 年度

【1】

題名	ぼくのお父さん
本人氏名	庄山 幸成（しょうやま こうせい）
性別	男
年齢	10
候補者との続柄	子
<p>ぼくのお父さんの仕事は、庭を作ったり手入れをしたり、街路樹の木を切ったりします。</p> <p>高い木にのぼって枝を切ったりしているすがたを見るとすごいつと思います。下から見ているとだいたいしょうぶかなあと心配にもなるけど高い所でがんばって仕事をしているお父さんはすごくかっこいいし、たくましいです。</p> <p>木のせん定以下にも庭を作ったりもします。家のふいんきとかにあわせてえを書いたり何もなかった庭に大きな石や木など機械をつかったりしてどんどん庭ができてきます。出来上がった庭を見た人から「ありがとうございます」と言われる事がとてもうれしいとお父さんはいいます。</p> <p>お父さんと公園に遊びに行ったりするとこの公園のここはお父さんが作ったと話してくれます。ぼくはそんなお父さんが「じまんだしそんけいしています」</p> <p>しょうらいぼくもだれかから「ありがとう」と言ってもらえて子どもにじまんのお父さんと言ってもらえる仕事につきたいです。</p>	

【2】

題名	わたしのじいじ
本人氏名	田崎 寧音 (たさき ねね)
性別	女
年齢	10
候補者との続柄	孫
<p>わたしのじいじは、仕事がすきな人です。</p> <p>家でも木を切ったり、犬の小屋を作ったりいろいろな事ができる人です。</p> <p>仕事になると、人が変わったようになるって、じいじと一緒に働いているパパがよく言っています。</p> <p>外での仕事は、大変なのに毎日がんばってるじいじに感心します。</p>	

【3】

題名	僕のおじいちゃん
本人氏名	黒谷 俊介（くろだに しゅんすけ）
性別	男
年齢	11
候補者との続柄	孫
<p>僕のおじいちゃんは、雨が強く降っても、大雪になっても、体の調子が悪くても朝早く起きて仕事の現場に行くのを見て、人々のことを考えて働く姿が素晴らしいと思っています。また仕事にプライドを持っているんだなあとも思います。</p> <p>今回の東北の震災の時にも、車に乗って現地に向かう姿は、震災の直後は僕だったら怖いので、すごいなあと思いました。きっと、大変な仕事だったと思いますが、帰ってきてからもまた東北に行きたいと話しているところがかっこよかったです。</p> <p>大雪が降った時には、朝早くから除雪に出るのも、きっとおじいちゃんがいなければ多くの人々が困るんだろうなあと思い、仕事の大切さと大きさを感しました。</p> <p>来年は六十歳にもなるので、仕事を頑張っているおじいちゃんがかっこいいけれど、体調に気を付けてほしいです。僕も将来は、おじいちゃんみたいに人々を助ける仕事につきたいです。</p>	

【4】

題名	ぼくのお父さんの仕事
本人氏名	泰間 健斗 (たいま けんと)
性別	男
年齢	11
候補者との続柄	子
<p>ぼくのお父さんは土木技術者です。毎日朝早くから仕事へ行って、夜遅くに帰ってきます。</p> <p>ぼくは、そんなお父さんはとてもスゴイと思っています。理由は二つあって、一つはたくさんある重機や道具を使いこなせることです。重機では、ショベルカーやブルドーザー、クレーン車などさまざまな重機を乗りこなせます。道具は、道具箱に入っているとたくさんある道具を使い分けて速く作業ができます。</p> <p>もう一つは、いろいろな仕事をこなしていることです。例えば、ブロックや石をたくさん積んでいく事もやっています。一個三十八キロの石を一日に三百個積むと聞いて、ぼくは信じられないと思いました。工事の書類を作る仕事もあります。昼は現場へ出て現場が終わってから書類を作るのです。時々家へ書類を持ち帰って作ったり、休みの日に書類を作るために事務所に行く事もあります。</p> <p>ぼくはお父さんの仕事をする姿を見て、大変だけどカッコいいと思います。自慢のお父さんです。ぼくもお父さんの様な仕事をしたいです。</p> <p>とても働き者でがんばっているお父さんですが、ぼくはお父さんの体が心配です。無理をせずに、しっかり休んでもらいたいです。</p> <p>ぼくが仕事を手伝える日が来るまで待っていてほしいです。</p>	

【5】

題名	お父さんの仕事
本人氏名	中村 亮太（なかむら りょうた）
性別	男
年齢	11
候補者との続柄	子
<p>ぼくのお父さんは、電気の仕事をしています。ぼくはお父さんが仕事をしていて大変だと思います。それは、月曜日から土曜日まで働いているのに、ときどき日曜日にも仕事で出ていくからです。家に帰って来るのもぼくらがねている時に帰って来たりします。</p> <p>お父さんの仕事は、すごくて、家にある電気を直したり、色んなものを木で作ったりするからです。家でも色んなものを作ったり直したりしてくれます。</p> <p>今ぼくは、理科で電気の勉強をしています。ぼくが理科で分からないところは、分かりやすく説明して教えてくれます。</p> <p>お父さんは、よくぼくに、安全の話しをします。ぼくはその事からけがや病気をしてはいけないと思いました。</p> <p>これからも、お父さんに元気で仕事を続けてもらいたいと思います。</p>	

【6】

題名	私から見た父の姿
本人氏名	杉尾 理穂（すぎお りほ）
性別	女
年齢	12
候補者との続柄	子
<p>私の父は、道路を造ったり、橋の下のけたを造ったり土木関係の仕事をしています。</p> <p>私が父の尊敬できるところは旭洋建設に勤めて三十年になるところです。私の学校の校長先生は、全校朝会で、「継続は力なり」という言葉を教えてくださいました。まさに父は、この言葉のように、同じ会社に三十年も勤めているので、すごいことだと思います。</p> <p>また、父は、休日に自分の造った道路やダムに連れて行ってうれしそうに話してくれます。私は人の力で、こんなにきれいな道路やすばらしいダムが造れるなんて父をほこりに思います。</p> <p>一年を通して、春・秋は気候が良くて仕事が進むと思いますが、夏は暑くて、冬は寒いので大変だと思います。</p> <p>十一月から三月にかけてあまり休みがとれないので、さみしいです。特に、朝は早いから「いってらっしゃい。」</p> <p>が言えず、夜はおそいから、「おかえり。」が言えません。もう少し、父と会話をしたり、遊んだりしたいです。もし休みがとれたら、家族で温泉に行きたいです。</p> <p>父は、体が基本の仕事だから、体に気をつけて、健康第一・安全第一でがんばってほしいです。そして、また、父の造った現場に連れて行ってね！私は、仕事がいっしょうけんめいな父が大好きです！</p>	

【7】

題名	お父さんの仕事の大切さ
本人氏名	八木 千花 (やつき ちか)
性別	女
年齢	12
候補者との続柄	子

私のお父さんは、道路をつくる仕事をしています。朝早くから、夜遅くまで家族のためにがんばって働いてくれています。

お父さんに仕事の事を聞いたら、いろんな資格をたくさん持っている事を知りました。すごいなあとも思ったけれど、いろんな資格をたくさん持っているからこそ道路をつくる仕事ができるのかなあと思いました。冬になると仕事が一番忙しいみたいで、私が寝ている間の夜中に仕事があったりもします。お父さんは寝る時間もバラバラだし、外は寒いから大変だろうと思いました。でもお父さんは夏が一番きついと言っていました。道路を造る時の材料の温度が150度くらいでそれをフィニッシャーという機械でしきならずのに100度くらいになるからだそうです。前の夏に仕事で汗をかきすぎて洋服に汗が塩になって真白になって帰ってきたことがありました。洋服が真白になるほど暑い中でも一生けん命働いてくれているんだなと思いました。

お父さんの仕事がみんなの役に立っていると思います。もし道路がなかったり、ガタガタしていると車などは通りにくいと思います。お父さんたちがこの仕事をしてくれているからこそ通れない場所も道路ができて通れるようになると思います。そんな仕事をしているお父さんを私はほこりに思いません。前に私が仕事から帰って来たお父さんにわがママを言ったことがあります。仕事が休みの日なら、「しょうがないな」と言って許してくれます。けれど仕事から帰って来た時は私をおこります。今までなぜだろうと疑問に思っていました。けど、この作文を書くためにお父さんに話を聞いてるうちにだんだんと理由がわかってきました。こんなに大変な仕事をして帰って来るのでつかれているせいだと思いました。だから私は、お父さんにわがママを言わず、かたをもんだりしてつかれをいやしてあげようと思います。

【8】

題名	父と僕
本人氏名	松田 一成（まつだ いっせい）
性別	男
年齢	14
候補者との続柄	子

僕の父の仕事は、造園建設業だ。

正直、仕事について、じっくり話したことがないから、僕は、漠然と、「公園を造っているのだろう。」と思っているくらいだ。ただ、僕が知っているのは、忙しく毎日働いている事だ。

母に聞いた話だが、愛知万博が開催されていた時、当時父は、多数あるパビリオンの中の、地球温暖化を考える壁面緑化の仕事と、日本庭園の仕事を携わっていたらしい。

まだ、小学生だった僕は、母と一緒によく足を運んだが、父の仕事というよりも万博を楽しんでいた覚えがある。

僕は、中学生になり、今は、ほとんどなくなってしまったが、父は、忙しい合間の休みの時に、僕と二人で、何度か科学館へ出かけた。僕は、父と理科全般の話をするのが楽しかった。

特に、夜空を広がる星をみて、星座を見つけるのが、とても好きだった。ある年、しし座流星群が見ることができると、ニュースで聞いた。僕と父は、寒空の夜、めーいっぱい厚着をして、数時間も二人で空を眺めていた。この日が、僕にとって、忘れることない、初めて流れ星をみた日になる。

少し前になるが、僕は、中学の職業体験で、二日間、建設業の会社でお世話になった。僕は、社員の人と車に乗って、今日の現場に行き、穴を掘ったり、出た土を運んだりした。僕にとっては、初めてのことばかりだった。

ふと、父の仕事とは、造るものがちがうけれど、父も毎日毎日、季節に関係なく、体と頭をつかい働いているのだろう。と思った。

父から自分の仕事について話してくることは、今もないが、父が万博で携わった、壁面緑化を町の中で見かけたりすることもある。

父は、公園を造り人を癒し、地球温暖化を考えた、環境にもやさしい仕事をしているんだ。と少しだけ父の仕事を自分なりに理解した。

今日も父は、いつもと変わらずに、朝から働いている。僕もいつもと変わらない。父のおかげだと思っている。

【9】

題名	僕から見たお父さん
本人氏名	齊藤 将一（さいとう しょういち）
性別	男
年齢	16
候補者との続柄	子
<p>建設技能者として働くお父さんは、僕から見て聞いたかぎりでは、いつも忙しそうで、休みの日も仕事のことを考えてるように見えます。</p> <p>休みの日に、家族でどこかに出かけようと高速道路に乗り、「この橋の鉄筋は、俺らで組んだんや。」と、自慢げに話をしてくれます。</p> <p>通った中ですごいなと思った橋は、滋賀県の第二名神、栗東橋です。</p> <p>栗東橋を通るたび、どうやって組んだのか、ここが大変やったなど、よく聞かされたのが印象的です。橋を見ていたら、お父さん毎日苦勞しているなと思います。</p> <p>でも、仕事の話聞く限り、楽しそうにやっているなと感じ取れます。</p> <p>僕のお兄ちゃんもお父さんと一緒に仕事をしていて、たまに辛そうに帰ってくるけど、仕事は楽しいみたいで、笑顔でかえってきます。家族で仕事っていうのに、ちょっと抵抗があるけれど、できるものなら兄とお父さんといっしょに仕事してみたいなと、思いました。</p> <p>今年は鳳連合の富木地区の地車曳行責任者という大役をこなし、富木の大勢の若者を束ねて無事曳行できた時の笑顔は最高でした。</p> <p>もう五十を過ぎ、体も衰えて、過酷な労働ばかりしてるみたいですが、いつになっても、笑顔で元気なおとうさんを見ておきたいです。</p>	

【10】

題名	最近わかった父の謎の仕事
本人氏名	山田 雅之（やまだ まさゆき）
性別	男
年齢	16
候補者との続柄	子
<p>僕が小学生の頃、父に何の仕事をしているのか？と尋ねると、父は、『工事現場で穴を掘っていると地面から水が出てきて、穴を掘ることができないので、お父さんが現場に行って、穴の周りに鉄のパイプを配りつないでそれから、マクドに行き、山ほどのマックシェイクを買い、そのシェイクのストローを地面に突き刺し、チューチューと地面の水を吸い上げて水を無くし、穴を掘れるようにする仕事だ。』と教えてくれました。小学生の僕に分かり易く説明してくれたのだと思いますが、僕は、マックシェイクの話しか印象に残らず、どんな仕事か理解できませんでした。</p> <p>中学生になり、友達に父の仕事のことを聞かれ、説明できなかつたので、もう一度、父に尋ねました。父は、「ウェルポイント工事とディープウェル工事をしている。」と言いました。詳しく内容を聞いてみると、この仕事は、アメリカから日本に入ってきた工法で、下水管を入れたり建物を建てたりする時に、地面から下を掘って水が出てきたら、その水を一時的に掘る場所まで地下水を下げる仕事だと説明してくれました。また、自慢げに少し英語ができないといけないうのだ。と言っているが、それは、ちょっとあやしいと思います。小学生の頃は、全然分からなかつた父の仕事が、少し理解できました。</p> <p>また、父は、その時に行う作業で、鉄パイプを地面に水圧で入れていく時に、パイプに伝わる手の感触で地面の中の色々な変化がわかるそうです。父の手がいったいどうなっているのか不思議でしたが、父が言うには、何年もやっていたら体が覚えるんだ。ということみたいです。</p> <p>聞くところによると、祖父も同じ仕事をしていたそうで、二人に、なぜ、この仕事をしてきたのか？と聞くと、目に見えて、すぐに結果がでることと、穴を掘る人達に『水、下がりましたわ。ウェルポイント、ばっちりですな。』と言われるのがたまらなくて、すごい達成感があるそうです。</p> <p>最近、父は、これからの土木現場や建築現場と環境などで、どんどん色々なかたちで、この仕事を使って行ってほしいと言っています。</p> <p>とてもハードな仕事なので、誰にでもできる仕事ではなく、よっぽど好きでないと続けていけないと自負して、この特殊な仕事をしていることに誇りをもっています。</p> <p>高校生の僕は、ずっと謎だった父の仕事を理解すると同時に、毎日、朝3時には起きて暑い日も寒い日も雨の日も、外の現場で、一生懸命に自信をもって仕事をしている父を尊敬しています。将来、僕は、どんな仕事に就くかわかりませんが、父のように自分の好きな仕事ができればいいなと思います。</p> <p>おとうさん、いつまでも元気でいてください。</p>	

【 1 1 】

題名	僕たちから見たお父さん
本人氏名	奥村 匡由（おくむら まさよし）
性別	男
年齢	18
候補者との続柄	子

僕が普段見るお父さんは、普通の優しいお父さんですが、仕事を一生懸命しているお父さんの姿はいつも家で見るとお父さんと何か違う一面を持っています。

小さい頃からお父さんが仕事を頑張っている姿をよく見ていたので印象に残っています。

成長した今、仕事をしている姿をあまり見かけなくなりましたが、時々庭を造っている所を見かけるととても楽しそうにしているなと思います。

お父さんが一度病気で入院した時はとても心配しました。その時、祖父から、「お父さんは、自分で庭を設計する所から実際に庭を造る所まで何でも一人でするのでとても助かっている。」

と聞き、お父さんは奥村造園になくなくてはならない存在なんだと初めて思いました。お父さんは、自分がこんなに皆から信頼されているとはきっと知らないと思います。

病気を克服した今、毎朝早く起きて朝食を作り、仕事に出かけます。これからも体に気をつけて、仕事の面も含めいろいろなことをがんばってほしいです。

奥村造園は、お父さんで三代目になります。いずれ僕がそのあとを引き継いでいけたら良いなと思います。

【12】

題名	わたしから見たお父さん
本人氏名	若月 遥香 (わかつき はるか)
性別	女
年齢	18
候補者との続柄	子
<p>私の父は、私にとって凄く素敵でカッコイイ大工さんです。父は私達家族の為に夏の炎天下の中、汗を流し、冬の寒い季節になると、誰よりも気合を入れ朝早く家を出ます。私は家でも弱音を吐かない父を見て、たくましく、強いなと思いました。そんな父を私は誇りに思います。</p> <p>父はお客様からの要望に何一つ嫌な顔をせず、お客様の希望にそった家を造る為、私達が知らないところで努力をしていたり、熱心にお客様とのコミュニケーションを取ったりど、父は自分がしてもらって嬉しい事を行っています。そんな父を見て、私の弟達二人は「父のような大工になりたい」と言っております。弟達は家で父に仕事について話を聞いていたり、実際に邪魔をしないように父の現場に行き、働いている姿を見たりし、自分の将来に繋げようと努力をしております。父の背中を小さい頃から見てきて私達にとって偉大な父です。お客様からも愛され、一緒に働いている人々達に信頼されている父は本当に自慢できる父です。父の娘に生まれてこられて幸せです。きっとこの先も父は大工の仕事に誇りを持ち仕事をすると思います。そんな父をずっと応援したいです。</p>	

【13】

題名	私の父
本人氏名	佐藤 賢二（さとう けんじ）
性別	男
年齢	18
候補者との続柄	子

建物を建てるということはそれを利用する人の生活を創るということである。建物を修理するということはそれを利用する人の生活を改善することである。衣食住という言葉があるように生活が変われば人生が変わる。建設技能者である私の父は人の人生を創っている。

あるお客さんの話。その人は父の父、つまり祖父の代からのお客さんで現在住んでいる家も祖父と父が建てたものだ。その家を建てた後も何度か仕事を頼まれたことがあって私もそれを手伝ったことがある。仕事の内容はすごく簡単なものですぐに終わった。しかし、そのお客さんからは明らかに仕事内容以上の報酬を渡そうとした。もちろん、最初は断ったがそのお客さんが「佐藤さんだけが頼りだから」と言ってそのお金を握らせたのである。そのとき私は思った。そのお金には仕事への対価としての金銭的価値以外にも感謝や信頼などその人の感情が含まれているのだと。私はそこに仕事を通じての父の人のつながりを見た。普段は無駄に長話する父だが、そういったことが人との繋がりを深めていくのだろう。

繋がりに関して一つエピソードがある。これも私が父の手伝いをしたときの話。当日になってお客さんが仕事内容に文句をつけてきたのである。そういうことは仕事の前の日までに言うべきだろうと思った。しかし、父はそれを快諾し、言われた通りに修正した。私はなぜ当日に文句を言われて愚痴の一つも言わず修正したかを尋ねたところ、父は自分の仕事を見て新たな依頼が来るかもしれない、そこで断っていたら得られたはずの仕事が得られなくなってしまう、と言っていた。なるほど、父は常に先を見据えて、仕事をするうえで何が最も重要かを知っていたのである。それ以外にもこのエピソードからわかるように、また仕事を手伝ってみて、父は仕事に対して真摯で臨機応変に対応でき、まるで完成形を目の前でみているかのように段取りがいいのだ。これは単に技術があるだけではできないことではない。他でもない経験に因るものだ。

父は今までに私に数えきれないほど同じ話をしている。それは父が今よりずっと若く、まだまだ未熟だったときの話だ。

あるお寺での仕事の依頼が来て、行ってみたら自分以外みんな県外から来た職人たちばかりだった。しかも、それだけではなく父はほぼ一人で仕事の一部を任されたのである。だが、父はそのような環境の中で無事に仕事をやり通したのである。おそらく、父は大きな緊張とプレッシャーを背負っていたであろう。しかし、そのような経験が今の父の礎となっている。

どのエピソードも細かい部分は省いたがどれも父の性格や仕事に対する姿勢をものがたっている。真面目で仕事もでき、人と人との繋がりを大事にする。そして、それによって得た経験が仕事に大きく活かされている。私はそんな父を誇りに思い、父としてだけではなく、一人の人間として尊敬する。

【14】

題名	ぼくの父の仕事
本人氏名	東 来夢（ひがし らいむ）
性別	男
年齢	19
候補者との続柄	子
<p>父は1987年に大学を卒業、海上自衛隊に入隊、三年間の修業を経て株式会社・東組へ入社しました。</p> <p>職種は船舶部門で、在籍していた祖父に厳しい指導を受けたそうです。</p> <p>当時の日本は土木工事の範囲が海洋に伸び、埋め立て、しゅんせつなどの苦労がうかがえる話を聞いたことがあります。</p> <p>父は仕事第一で、ぼくも兄もあまり遊んでもらった記憶がありません。帰りはいつも遅く日曜や祝日もほとんど船で仕事をしています。父の仕事に対する姿勢と情熱は尊敬に値いするものだと常に思っています。</p> <p>父は家ではめったに仕事のぐちなどは言いませんが、時々、祖父と工事のことを話しているのを耳にすると困難なことが多いのだと感じます。</p> <p>海の工事をするには、まず海技士の資格、建設機械の運転免許など、受験科目も多いので、今のぼくにはとても大変なことに思えます。</p> <p>ぼくは父とは違う道を歩んでいますが、仕事にかける父の情熱は見習いたいと考えています。</p> <p>それから、一番気にかかるのは、事故のことです。海の工事は、風雨だけではなく、波浪、潮の干満などに左右されるので、安全に過ごしてほしいと願っています。</p>	